特集 サルコペニア肥満

欧州臨床栄養代謝学会(ESPEN)と欧州肥満学会(EASO)におけるサルコペニア肥満の方向性

9

若林 秀隆[1] 東京女子医科大学病院リハビリテーション科教授

KEY WORDS 欧州臨床栄養代謝学会(ESPEN) ／ 欧州肥満学会(EASO) ／ サルコペニア肥満 ／ コンセンサス

抄 録

欧州では，欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN）と欧州肥満学会（EASO）が合同して，サルコペニア肥満のコンセンサスをつくることを開始した。現在までに2本の論文が発表されているが，コンセンサスはまだできていない。本項では発表された2論文を通じて，欧州におけるサルコペニア肥満の方向性について解説する。日本では，日本肥満学会と日本サルコペニア・フレイル学会で，サルコペニア肥満の合同ワーキンググループを作成している。可能であれば，欧州より先にサルコペニア肥満のコンセンサス論文を，日本から出版することが望ましいと考える。妥当性を検証したコホート研究結果を受けて，より早くサルコペニア肥満のコンセンサス論文が日本から出版されることを期待している。

I はじめに

2018年に欧州臨床栄養代謝学会（European Society for Clinical Nutrition and Metabolism; ESPEN）と欧州肥満学会（European Association for the Study of Obesity; EASO）が合同で，『サルコペニア肥満：挑戦のとき』という論文を発表した[1,2]。ESPENとEASOは，研究者と臨床家にとってサルコペニア肥満の科学的，臨床的な優先順位が高いことを認識した。そのため合同で，サルコペニア肥満の定義，診断基準，栄養療法を含めた最適な治療のコンセンサスをつくることを開始した。その後，2019年にESPENとEASOは，『系統的レビューに基づくサルコペニア肥満の定義と診断基準の批判的吟味』という論文を発表した[3]。本項では，これらの論文を通じて，欧州におけるサルコペニア肥満の方向性について解説する。

II サルコペニア肥満：挑戦のとき

この論文では，サルコペニア肥満の基礎知識，患者

[1] Hidetaka Wakabayashi
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
E-mail: noventurenoglory@gmail.com

［COI］報告すべきCOIはない。

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.